

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170101998		
法人名	社会福祉法人 イーストヘルスケアソサエティ		
事業所名	グループホーム・スマイル		
所在地	岐阜県岐阜市芥見野畑1丁目25番地		
自己評価作成日	平成28年11月15日	評価結果市町村受理日	平成29年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?acti.on.kouhyou_detai_2016_022_kani=true&ij_gyosyoCd=2170101998-00&PrEfCd=21&VerSi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	平成28年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域資源を生かして外出の機会を多くし、四季を感じて頂き利用者様の満足度の向上に努めています。ラジオ体操や食事作りなどに取り組みメリハリのある生活が送れるようにも努めています。入浴も毎日どの時間でも入れるよう本人のペースに合わせ支援を行っています。イキイキした自分らしさ、必要とされていると思えるような役割作りを行う事で自分らしさを出せれるような支援に心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との繋がりを大切に考え、地域の方々が来訪していただけるよう工夫している。利用者は四季折々に馴染みのある場所へ外出したり、毎月、馴染みの商店に買い物に行ったりしている。また、地域のニーズに応え、建物内の1階スペースで、毎月地域サロンが開かれ、利用者が参加する等交流の場となっている。サロンの内容によって、法人内職員が講師となり、リハビリや体操、介護知識を教えている。また、地域の幼稚園児の作品を展示する等して地域の方々に公開している。日常的な生活場面の支援では、コミュニケーションを重視し、利用者の言葉を傾聴する「待ちの姿勢」に心がけ、「やりたい事」を聞き取り、できる限り支援している。例えば、食事については味付け、盛り付け、配膳、お茶やおしぼりの準備等、利用者それぞれができる事を役割として、いきいきと取り組む様子が見られた。また趣味活動においてもゆっくり自分のペースで取り組めるよう「やりたい事」の支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念の基にグループホームとしてのチーム目標に取り組み、事業所会議等で話し合いをしている。	法人の理念や基本方針を基にして、年度初めにグループホームの目標を掲げている。今年度は個人の尊重を目標に、利用者とのコミュニケーションを通して、とりわけ利用者の意思決定の尊重に取り組んでいる。年度末には会議で目標の振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	月1回の地域自治会サロンに参加して、体操等に取り組み地域の方との交流がある。保育所の園児の来所もある。	1階共用スペースを毎月開催する地域サロンの会場として提供している。毎回10～15名程の参加者があり、体操や車いす操作について職員が講師役を務めることもある。近隣の保育所とは年に2回程、交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の夏祭り等のチラシを配布して、地域の方々との交流を図っている。また、月1回地域サロンとして、地域の方に施設の場を提供して認知症についての理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6ヶ月に1回会議を開催して意見交流をしている。取り組み状況の報告、助言を受けサービスの向上に努めている。	会議には、地域の方々や市担当者、家族等の参加があり、行事や事故等について報告を行っている。事故後の対応や地域交流などについて意見や助言をいただいている。	会議の開催回数を増やすため、地域の委員に会議の意義について説明したり、家族会の日程に合わせて開催する等して適正な開催回数の確保に向けた取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村からの送られてくる情報を得て現状報告や、問題点に対する助言を受けて職員で共有している。	研修案内や防災その他各種情報について提供を受けたり、ホームの取り組みについての報告や事故報告をしたり、また助言を受ける等連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1度法人内の委員会を開催し話し合いをしている。日中は玄関の施錠せず開放して自由に廊下を散歩出来るようにしている。	法人内の委員会では事例検討により拘束をしないケアの工夫について話し合っている。話し合った内容は書類で閲覧し、職員間で共有している。利用者一人ひとりの転倒リスクを把握し、会議や申し送り等で情報共有して身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部・法人内研修で、虐待防止関連について学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部・法人内研修・施設外研修で学んだ事を、事業所会議でも話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、ホーム内の見学や、利用者・家族の不安や疑問に答えている。契約時には文章を確認していただき十分な説明を行い理解納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会議は6ヶ月に1回開催している。ホームからの活動報告、今後の活動予定等報告しています。家族の意見・要望には耳を傾け検討をし対応している。	年2回の家族会で、家族から意見を伺っている。例えば事業所での様子を詳しく知りたいという要望に応え、ノートを準備し、日頃の様子を書いたりしている。また、外出機会を増やしてほしいという意向を踏まえて外出行事を検討する等意見を取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議・事業所会議にて、職員からの意見を聞き、提案については代表者や管理者は実現できるように協力している。	月1回開催する事業所会議や法人内での様々な委員会の中で出された意見は運営会議で検討されている。例えば、外出行事についてや環境整備等の意見が出されているとのことである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるような環境や条件の整備に努め、研修以外でも多くの研修に参加できるよう機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に外部研修の情報を提供して、必要な研修は参加を促している。資格習得を促し、法人での勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員は協議会を通じて同業者と交流を図り、勉強会にも参加して、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談でご本人の生活状態を把握したり、ご本人・家族に見学して頂き要望や不安等を聞き求めていることを理解しようと努めている。ご本人の思いに向き合い職員が受け入れられる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望を受け止め、どのような対応ができるか職員で話し合っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の不安や思いを確認し、必要としているサービスが適切であると感してもらえような支援を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちを尊重しながら、どんな所に行きたいか、何が食べたいか話している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を家族に伝え安心していただいたり、家族にしかできない援助をお願いして本人との関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と外出したり、友人と会ったりして関係維持に努めている。地域のスーパーに買い物に出掛けている。	本人や家族との会話の中から馴染みについて聞き取るようにしている。行き慣れた地元のスーパーに月に1回は買い物に行けるよう支援している。また、建物内の併設事業所の利用者との交流を通じて馴染みの関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士声を掛け合い、支え合う事が出来るが、気分・体調で感情の起伏がありトラブルにならない様に見守りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等でやむ得なく利用が中止となった場合は、家族の相談にのり思いを支援している。その他の場合にも、利用後の本人の様子を確認し必要に応じた体制作りにも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉だけではなく、動作や表情から本人の思いを知るように心がけています。本人のペースに合わせゆっくり待っている。	本人のペースを大事にして、待つ姿勢でコミュニケーションを図り、利用者の思いを汲み取るようにしている。声のトーンや表情などから思いや意向を把握するように心がけ、その思いに応えている。例えば、外出や編み物をしたいなどの意向に応えることができている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報だけではなく、入所後の本人の話や会話、家族との会話で知り得た情報を共有して把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックでの生活のリズムや体調を知り、本人に合わせた生活ができる様に支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング・アセスメント・介護記録を基に話し合い、本人や家族の意見が反映された介護計画を作成している。	介護計画を作成後、モニタリングや評価を実施し、3ヶ月に1回、介護計画の見直しを行い、体調の変化があった場合にはその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録からの気づきや、日常のケアの中からの気づいたことを職員同士が話したり、グループ会議で検討したり情報を共有する事で実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等に対応し必要物品の購入も援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方による踊りや歌などで気分転換している。買い物などでの気分転換も図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は、家族の付き添いにて受診されている。緊急時は、本人・家族と相談の上職員付き添いで受診の援助を行っている。	病院の定期的な受診については家族同行のもとに行われている。緊急時等必要な場合には、職員の付き添いも行っている。ホームでの利用者情報や医師の受診情報の共有を通してかかりつけ医との連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特別養護老人ホーム看護職員と情報を共有し、特変時には対応できる体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は、安心して治療が受けられるように病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に法人の方針を伝え継続した医療行為が必要であれば、本人・家族と相談の上で入院を確かめている。重度化については、出来る限り今の生活を維持できるように支援している。	重篤化した場合の入院の可否については、看護師が中心となり判断し、家族の意向を踏まえた上で、今後の方針を決めている。家族への情報提供や相談は速やかに行い、状態に応じては法人内の特別養護老人ホームへの変更を勧めている。できる限り利用者や家族の意向を汲みとった支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに協力病院や連絡先を明記し、施設内研修で応急手当などの勉強会を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人として年2回利用者参加にて昼夜を想定した避難訓練を実施している。実施後は反省会を行っている。	地震、火災を想定した訓練を実施している。ホームは4階にあるため、ベランダに続くフロアに集り、安全を確保するようにしている。下階にある法人の特別養護老人ホームとは、緊急時の協力体制ができています。	2、3階の特養からの応援を受ける体制になっているが、具体的な役割や分担等を詳細に取り決めて、緊急時に行動できるよう協議に向けた取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の気持ちを考え声掛けには配慮して、自己決定しやすい言葉かけが出来るように努めている。排泄時にはプライバシーに配慮して対応している。	一人ひとりのプライドを尊重した、声かけに努めている。とりわけ入浴や排泄には他の利用者には気づかれないよう対応に配慮している。居室入口の丸型の透明ガラスの部分には、花や風景写真を貼り付ける等、外から見えないよう検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声掛けをしている。本人が答えやすい・選びやすい働きかけをしている。難聴の方には、耳元や筆談にて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に合った生活リズムを大切にして、起床や就寝時間は尊重されています。買い物等も個人の希望に沿えるように援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回の施設内の理美容の利用を援助している。着替えは本人の意向で決めており、好みの衣服を着て過ごされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士が献立をたてており、用意された食材を職員と利用者で調理している。毎日皆様と協力して食事の時間を楽しむ事が出来ている。	法人全体の厨房でカットされた食材が運ばれてくるので、ホームで調理している。またリンゴ剥き、ねぎのカット等、切る、剥く、食器の準備、お手拭丸め等、利用者がそれぞれに分担し合い、職員と共に和気あいあいと調理を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりのその日の体調と1日の摂取量を把握している。夜間はペットボトルのお茶をいつでも飲める様にしている。月に1回体重測定を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には声掛けや見守りをしている。口腔ケアが不十分な方には一部介助にて清潔を維持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を記入して、一人ひとりの排泄パターンを把握している。声掛けをしたりトイレ誘導を行なっている。	利用者がトイレに利用した際に、さりげなく排泄チェックをして記録に残している。日中の様子を夜間勤務者に伝え、トイレの頻度や一人ひとりの状況などを情報共有し、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、体を動かすようにストレッチ体操を行っている。個人の状態に応じて食事や水分量に気をつけている。本人希望時や定期で下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴ではあるが、その日の気分が乗らず入れなくても、いつでも入浴が出来るように毎日入浴時間を設けている。一人ひとりのタイミングに合わせた支援を行っている。	週2日の入浴を基本としているが、利用者の気分などに合わせ、週に2~3回入っていただけるよう、臨機応変に対応している。入浴を拒まれる利用者に対しては、声かけ役を交代したり、時間をずらしたりして気分良く入浴していただけるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調を観察して休息の時間が必要な方には声掛けをして休んでいただくように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の診察を受け、服用している。症状の変化も医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作品作りや食事作りなど、一人ひとりの参加を促し本人のやれる喜びを感じ、役割のある生活を送っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月3回の買い物支援やドライブなど外出支援している。カフェや、夏祭り参加などで地域の方々との交流を図っている。	利用者と職員の少人数で、スーパーや薬局などに月3回、定期的に出外する機会を作っている。また月1回、メディアコスモスで開かれるオレンジカフェに出かけ、歌や体操を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり、買い物時にはお金を渡し援助を行っている。金銭管理は職員が行い家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話の希望をされた時には援助している。手紙は年賀状など書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きの日当たりの良いリビングで明るく開放的で戸外の景色からも季節感を感じられる。遮光カーテンを使用し、光の調節を行っている。換気に心がけフロア内や居室の湿度にも注意している。	毎朝、窓を開けて換気をしており、室温を適温に設定し、食事の際には、オルゴールの音楽を流すなど、利用者が気持ちよく過ごせるよう配慮している。日頃からベランダの鉢の水やり、プランターの草取りや、クリスマスツリーを職員と一緒に飾りつけるなど、ホームでの生活を楽しく過ごしていただけるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテレビ・カラオケの設備があり、丸テーブルや、本棚などを置いている。移動には十分な広さを確保し、自由に利用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着けるように馴染みの物を置かれたり、趣味の物をタンスの上に置いたり飾ったりしている。部屋には洗面台があり、口腔ケアは自分でやっている。冷蔵庫・テレビは持ち込まれている。	ベットの位置や向きは利用者の希望を踏まえて配置されており、利用者の作った作品や人形、写真など思い思いのものが飾られ、居心地良く過ごせる居室であることが伺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口は分かりやすく色分けされている。居室にはポータブルトイレを置き出来る限り自立した生活が出来るようにしている。		